

第七十四回
帝國議會
貴族院

朝鮮事業公債法中改正法律案特別委員會議事速記録第五號

昭和十四年三月七日(火曜日)午後一時三十九分開會

○委員長(伯爵堀田正恒君) 是ヨリ開會致シマス

○子爵野村益三君 此ノ前御要求申上ゲタ表ガ出來テ廻ッテ來タヤウデアリマスガ、之ニ付テ當局ノ一應御説明ヲ煩ハシタイト思ヒマス

○政府委員(水田直昌君) ツイ只今鐵道局ノ方デ拵ヘマシタバカリデアリマシテ、御手許ニ差出シタ譯デアリマスガ、朝鮮國有鐵道ノ各線別ノ旅客ト貨物トニ分ケマシテ、一日「キロ」當リノ旅客ノ人員トソレニ對シマスル「キロ」當リノ收入、更ニ貨物ニ付キマシテハ一日「キロ」當リノ各線別ノ「ト

ン」數、「キロ」當リノ收入、更ニ最後ノ欄ハ旅客ト貨物ヲ合計シマシテ「キロ」當リノ收入、平均シマシテ五十八圓、旅客、貨物ヲ併セマシテ收入ガ「キロ」當リ五十八圓ト云フコトニ相成ッテ居リマス、ソレカラ滿鐵ニ其ノ經營ヲ委託シテ居リマスル北鮮線ニ付キマシテモ矢張り同様ナ計算ヲ致シマシテ、「キロ」當リ一日旅客貨物ヲ併セテ收入ガ六十圓餘ト云フコトニ相成ッテ居

リマス、私設鐵道ニ付キマシテモ矢張り各鐵道別ニ只今申上ゲマシタヤウニ、旅客貨物別ニ計算シテ出シテ居リマス、全部均ラシマスト旅客貨物ノ「キロ」當リノ平均收入ガ十九圓餘、要シマスルニ國有鐵道ニ於キマシテハ「キロ」當リ五十八圓餘、ソレカラ滿鐵ニ經營ヲ委任シテ居リマス國有鐵道北鮮線ハ六十圓餘、私設鐵道ガ十九圓餘ト云フコトニ相成ッテ居リマス、私設鐵道ノ收入ハ遙カニ國鐵ニ及バナイト云フコトニナッテ居リマス、ソレカラ尙朝鮮ニ於ケル鐵道普及ノ狀態、昭和十三年十二月末現在デ開業致シテ居リマスル鐵道ガ國有、私設鐵道併セマシテ五千三百六十三「キロ」餘ト云フコトニ相成ッテ居リマス、面積千平方「キロ」ニ二十四「キロ」三分ト云フコトニ相成ッテ居リマス、國有鐵道ノ未開業線ト、私設鐵道ノ未開業線ト將來是迄開業スル計畫ニ相成ッテ居リマスルノデ、全部開業シタ場合ヲ見マスルト云フト國鐵、私鐵ヲ併セ七千四百十四「キロ」ト云フコトニ相成リマス、斯クナリマシタ場合ニ於テハ、是ハ昭和十七年末ノ豫定デアリマスガ、三十一「キロ」九、凡ソ千平方「キロ」ニ三十一「キロ」ト云フコト

ニ相成ルノデアリマス

○子爵野村益三君 只今御説明ヲ得タコトハ此ノ前私ガ申上ゲタ通り、私ノ伺ヒタイノハ斯ウ云フ風ナ狀態デアルカラ、朝鮮ノ開發上重要ナ意味ヲ持ッテ居ル鐵道政策ハドウナサルベキデアルカ、其ノ御心組ガドウデアアルカト云フコトヲ實ハ伺ヒタカッタ、例ヘテ申シマスレバ、是ハ此ノ前モ申シタノデアリマスガ、外地ノ鐵道普及ノ狀態ヲ比較シテ見ルト、北海道、北海道ハ外地デアリマセヌガ、北海道ニ付テ言フト四十八「ポイント」七「キロ」、臺灣デサヘモ三十八「ポイント」七、昭和十七年末ニ、既成線竝ニ私設鐵道デモ開通サレタ曉デモ、朝鮮ニ於テハ僅カニ三十二「キロ」ニ過ギナイ、甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、ソレヲドウ云フ風ニ御考ヘニナルカ、斯ウ云フコトヲ承リタカッタノデアリマス、若シ伺ヒ得マスレバ結構ト思ヒマス

○政府委員(大野綠一君) 御示ノヤウニ朝鮮ノ鐵道ノ敷設ノ狀況ハ、内地或ハ又臺灣ニ比較致シマシテモ事實劣ッテ居リマスノデ、是ハ更ニ十分必要ナル線ヲ敷設致シマシテ、此ノ情勢ヲ改善シテ行カナケレバ

ナラスノデアリマス、唯現在ノ處、昭和元年ニ十二年計畫ヲ樹テマシテ、其ノ計畫ガ既ニ諸種ノ財政上ノ理由ヤラ、或ハ色々ノ關係カラ致シマシテマダ年次ガ殘ッテ居ルヤウナ次第デ、之ヲ更ニ他ノ内地、或ハ臺灣等ニ敵スル迄ニ致シマスルノニハ餘程ノ費用ナリ、或ハ餘程ノ年次ヲ要スル譯デアリマス、併シサウ申シマシテモ朝鮮ノ狀況カラ致シマシテ捨テテ置ク譯ニハ行キマセヌノデ、更ニ包括的ナ計畫ヲ樹テテ進ンデ行カナケレバナラスト考ヘテ居リマス、唯、只今ノ情勢ト致シマシテハ物資ノ方面ニ於キマシテモ、或ハ一方ニ於テ過日來非常ニ問題ニナッテ居リマス公債ノ關係ニ於キマシテモ非常ナ制約ヲ受ケテ居リマスノデ、一舉ニシテ之ヲ片付ケルト云フコトハナカ／＼參リマセヌ、先ヅ年々ニ其ノ情勢ニ應ジマシテ他ノ新線ヲ増設シ、又餘儀ナイ場合ニハ私設鐵道ヲ強化シテ行ク、ソレデ此ノ狀態ヲ除クニ改善シタイト云フ斯ウ云フコトニスルヨリ外アルマイト考ヘテ居リマス

○子爵野村益三君 尙此ノ表ニ現レテ居リマス通り線路ノ一日「キロ」通過人員數、

或ハ貨物ノ「トン」數、是ノ如キモ臺灣アタリニ比較シテモ餘程差ガアルヤウデス、ソレハ詰リ鐵道ノ經營即チ運營トカ、或ハ色々ノ施設ニ俟ツ所ガ多イト思ヒマス、勿論臺灣ニシテモ御承知ノヤウニ臺東線ト本線トハ非常ニ差額ガアリマス、大體ハ今御話シタ通りデアリマスルノデ、其ノ鐵道ノ運營、經理ト云フヤウナ點ニ付キマシテモ出來ルダケ一ツ御勉強ヲ願ヒタイト思フ、ソレカラ尙此ノ前ニ或委員カラ御希望ノ御質疑ガアツタト思ヒマスケレドモ、鐵道ノ普及ヲ圖ル爲ニ當然サナケレバナナイ私設鐵道ノ買収、是モ出來ルダケ一ツ早ク實現ナサルヤウニ御願ヒシタイ、私ハ此ノ希望ノ質疑ヲ以テ私ノ質疑ヲ終リマス

○男爵大藏公望君 チョット速記ヲ止メテ下サイ

○委員長(伯爵堀田正恒君) 速記ヲ止メテ下サイ

午後一時四十八分速記中止

午後二時五十分速記開始

○委員長(伯爵堀田正恒君) 速記ヲ始メテ……

○子爵秋元春朝君 此ノ朝鮮關係ノ三法案ニ付テハ、大體皆サン御質疑ガ濟ンダヤウナ氣持ガ致シマスカラ、此ノ際討論ニ入ラ

レテ、此ノ三法案ダケ採決ナサレルヤウニ皆サンニ御諮リ願ヒタイ

○委員長(伯爵堀田正恒君) 朝鮮事業公債法中改正法律案外二件ニ對スル御質問ハ終了致シタト看做シテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(伯爵堀田正恒君) 御異議ナイト認メマス、討論ニ入りマス

○子爵秋元春朝君 私ハ只今討論ニナリマスル三法案ニ對シマシテ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス、但シ一二ノ希望ヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、第一ニ此ノ朝鮮事業公債法中改正法律案、今回此ノ限度ヲ相當ニ澤山ニ御増シナルト云フコトデ甚ダ結構ナコトデアリマス、殊ニ其ノ使ハレルモノハ鐵道ノ改良トカ、港灣ノ修築トカ、主ニ交通運輸ニ關スルコトニ付テ意ヲ用ヒラルト云フコトハ甚ダ喜バシイコト存ジマスガ、併シ私ハ此ノ前ニモ拓務大臣ガ御出デノ時ニ此處デ申上ゲタノデアリマスガ、何シロ輸送力ノ不足ト云フコトガ總テノモノニ關係スルノデアリマスガ、現状デ無論満足ハナサイマスマイガ、此ノ位ノコトヲナサツテモ直グ行詰ルノデ、明年度ニモ尙此ノ以上ノコトヲ爲サラナケレバ、實際ニ於テ二進モ三進モ行カナイ、輸送ノ詰リト云

フコトガ出テ來ヤシナイカト思フノデアリマスガ、其ノ點ヲ能ク御考慮ヒタイト思ヒマス、ソレカラ朝鮮ノ私設鐵道ノ補助法中ノ改正、是ハ尤ナ改正ト思ヒマス、併シナガラ五年ヅツ、五年ヅツ、度々ニ切ツテ、延バシテ御イデノヤウデアリマスガ、之ヲ裏カラ申セバ見透シガ付カズ、又施設宜シキヲ得ズ、所定ノ十五年デウマク行カナカッタト云フ風ニモ見エルヤウデアリマスガ、是ハ色々ナ其處ニ障礙モゴザイマシタラウ、併シ是ハモウ一層力ヲ入レテ、今度ハ五年延バサヌ中ニ全部獨リ歩キ出來ルヤウニ、此ノ際御考ヘニナツテ然ルベキデヤナイカ、斯ウ云フヤウニ考ヘルノデアリマス、此ノ希望ヲ申上ゲテ置キマス、ソレカラ第三ニ買収ノ問題デアリマスガ、是ハ無論朝鮮ノ私設鐵道ハ内地ノ私設鐵道ト違ヒマシテ、國營代行ト云フ大キナ看板ヲ立テ御始メニナッタコトデモアリマスシ、ソレガ出來マシテカラ相當長イ間、全部ヲ買フノダ、毎年買フノダ、今年ハ是ダケ買フノダ、來年ハ是ダケ買フノダト云フヤウナコトヲ御言明ニナツテ、僅カ其ノ中一小部分シカ此處ニ出マセヌト云フヤウナ話デ、國營代行ト仰ッシヤッタ手前、餘リ長過ギルノデ、モウ少シ早ク御決心ニナツテ、僅カ總額八千萬圓カ、九

千萬圓ノ金ガアレバ直グデモ出來ルト云フヤウナコトデアリマスシ、一方ニ於テハ多額ノ補助金モ出シテ置キ、サウシテ尙獨リ歩キガ出來ヌト云フコトデアレバ、一層ノコト自分ノ物ニシテ、買上ゲテシマツテ、コチラデ勝手ニ速成スルト云フコトガ、國家ノ永遠ノ財政ノ上カラ見レバ、却テ安イノデナイカ、尙且輸送力ノ増大ニ付テモ非常ニ便宜、便宜ヲ得ルノデヤナイカト云フヤウナ氣モ致シマス、是等ノ點ヲ希望トシテ申上ゲ、三案ニ贊成ノ意ヲ表シマス

○委員長(伯爵堀田正恒君) 別ニ他ニ御意見ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(伯爵堀田正恒君) 別ニ他ニ御意見ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(伯爵堀田正恒君) ソレデハ御意見ナイト存ジマス、討論ハ終了致シマシタ、採決致シタイト思ヒマス、朝鮮事業公債法中改正法律案、朝鮮鐵道株式會社所屬金泉慶北安東間鐵道買収ノ爲公債發行ニ關スル法律案、朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案、三案ヲ問題ト致シマス、全部原案通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(伯爵堀田正恒君) 御異議ナイト

認メマス、引續イテ明治四十五年法律第二十三號中改正法律案ニ付テ御質問ガアリマシタラ願ヒマス

○子爵秋元春朝君 私ハ此ノ樺太ノ石炭ノ問題デスガ、之ニ付テ一體燃料全部ト申ストヲカシイデスケレドモ、「ガソリン」ト石油ト石炭ト、此ノ三ツニ關スル物動計畫ト云フヤウナモノモ無論オアリニナルコトト思ヒマスガ、斯ウ云フ燃料ニ關スルコトニ付テ、一ツ政府ノ御所見ヲ、或機會宜シウゴザイマス、何モ今日トハ限リマセヌ、勿論ハ企畫院デ主ニヤッテ御イデニナルコトダラウト思ヒマスカラ、企畫院總裁ノ御出席ヲ願ヘレバ願ッテ、無論ハ速記ヲ止メ、秘密會デヤラナケレバ御言明ハアルマイト思ヒマスカラ、秘密會トシテ一ツ開クト云フコトヲ皆サシニ御諮ヲ願ッテ、左様ニ御取計ラヒニナラムコトヲ實ハ希望致シマス

○子爵野村益三君 今ノ御提案ニ關聯シテ居ルノデスガ、私ハ此ノ燃料政策ニ付テ、長官カラノ御話ノ出來ル範圍ニ於テ、一ツ根本ノ政策ニ付テ伺ヒタイト思ッテ居リマス、尤モ是ハ程度ノ問題デアリマスガ、ドウ云フコトニ委員長ハ御取計ラヒニナリマスカ、只今其ノ運ビニナリマスカ、如何デスカ

○委員長(伯爵堀田正恒君) ドウゾ……

○子爵野村益三君 ソレデハ少シク序論的ニ私ノ感想ヲ申述ベテ、ソレカラ御差支ナイ限リニ於テ、併シナガラ出來ルダケ分ルヤウニ、何シロ我々素人ナンデスカラ、御差支ナイ限リニ於テ詳シク御話ヲ願ヒタイト思ヒマス、實ハ燃料問題ガ起ッテ我々モ蔭ナガラ注意シテ居ルノデアリマス、處ガナカナカ、一口ニ申セバ分ラナイ、謂ハバ何ダカ燃料問題ニ對スル、我々殊ニ私ノ感想ハ、雲ヲ擱ムヤウナ狀態ナンデス、本特別委員會ガ開會セラレテカラモ、今迄ノ手許ニアル材料ニ付テ考ヘテ見タノデスケレドモ、矢張り釋然トスルコトガ出來ナイ、ソコデ私ハ感ズルノデス、ソレハ無理モナイコトデ、例ヘバ低溫乾溜ニ付テハ一通リ成算ガ立ッタトハ言フモノノ、合成トカ、或ハ液化ノ問題デハ、的確ニ方法ガ立ッタト云フ譯ニハ行カナイ、現ニ諸所方々デ研究ヲシテ居ル、マア輸入シタモノハ「フィッシュ」法トカ、或者ハ又「ボッシュ」法ガ宜イトカ云フコトモ言ッテ居ル、燃料研究所デモ、御説明ニ依ルト、五百萬圓ト云フ巨額ノ工業試驗費ヲ支出サレルノデ、十四年度ノ豫算ニ付テモ二十何萬圓デスカ、ト云フモノヲ御出シニナル、此處デ色々ナ

方法ヲヤラレル、「カタライザー」ノ研究デモ、實ハ一二ニシテ足リナイ、色々ノ方面デヤッテ居ル、實ハ私ハ此ノ前御話シテカラ、資源局ノ報告ヲ一應目ヲ通シタノデアリマスルガ、合成ノ問題ニシテモ、「カタライザー」ノ研究ニシテモ、ソレカラ又低溫乾溜ノ方法ニシテモ、各所ノヤッテ居ル其ノ研究ガ、マダ研究ヲ持續シテ居ルノデス、サウ云フ場合デスカラ、ドウモ立入ッテ我々が伺ッテモ要領ハ得ナイシ、又我々が考ヘテ見テモ要領ヲ得ナイ、ソレカラ第三ノ問題ハ、ドウ云フモノデスカ、石油ノ量ニ對スル單位ト云フモノガ實ハマチノデス、或ハ「バーレル」アリ、或ハ「キロリットル」アリ、或ハ何石ト云ヒ、或ハ何「トン」ト云フ、是ハ我々ガ一々ソソナコトヲ換算シテ數字ヲ出スト云フコトハ、ナカノ容易デヤナイ、サウ云フヤウナ煩累ガアル、斯ウ云フモノガ我々ノ燃料政策ニ對スル關心ヲ妨ゲルト云ヒマスガ、研究ヲ抄ラセナイ因ダラウト思ヒマスガ、兎ニモ角ニモ併シナガラ最モ重要ナル問題ハ、ドウモ當局者ガモウ少シ打明ケテ我々ニ御示ニナルト云フコトガ第一デハアルマイカと思フ、其ノ點ニ於テ私ハ幾ラカ不満足ガアル、ソコデ實ハ樺太ノ燃料問題ニ關シマスガ、併シ是ハ此ノ

間カラ我々が研究シテ居ルヤウニ、單リ樺太ノ問題デハナイ、詰リ國策トシテノ燃料政策ニ副フベキ一ツノ現レナンデス、カルガ故ニ今燃料研究所ノ經費ニ付テモ、相當額ヲ奮發サレ、或ハ臺灣ニ於テモ、天然「ガス」ノ研究ニ付テモ、中央試驗所ニ相當ナカヲ入レ、ソレカラ又朝鮮ノ方デモ、御承知ノヤウニ力ヲ入レテ居ル、四方三方カラ此ノ國策遂行ニ副フベク努力ヲシテ居ル、其ノ點カラ言フト、私ハ樺太廳ハ非常ニ恵マレテ居ル、樺太長官ノ御努力モ非常ニナサレ甲斐ガアルト思ッテ喜ンデ居ル、サウ云フ譯デアリマスカラ、ドウカ一ツ出來ルダケ御話ヲ願ッテ、サウシテ共ニ俱ニ國策ニ副フベク努力ガ出來ルヤウニ御考ヘ願ヒタイト思フ、ソレデマア質疑應答デハヤカマシイデスカラ、コンナコトハドウデアラウカト云フコトヲ便宜上申シテ見ヨウト思フ、第一ニハ燃料政策樹立、殊ニ液體燃料政策樹立ニ付テノ道行ガ分ラナイ、ドウ云フ風ナ計畫ニ依ッテ所謂我が國ノ燃料、殊ニ液體燃料政策ガ樹立サレテ居ルカト云フコトガ第一ニ伺ヘレバ結構デス、ソレデ商工省ノ方ニハ御承知ノヤウニ石炭生産力調査委員會デスカ、ト云フヤウナモノガアル、ソレカラ液體燃料調査委員會ト云フモノモアル

前者ノ方ハ姑ク措イテ、何レ我ガ國ノ液體燃料政策ノ樹立ト云フコトハ、今ノ液體燃料調査委員會ニ付議サレテ、其ノ答申ヲ基トシテ、サウシテ此ノ當局、當局ト申セバ商工省モアリマセウシ、企畫院モアルト思フノデスガ、サウ云フ方面デ熟議サレテ、サウシテ所謂法律トナリ、帝國燃料興業株式會社ノ創設トナツタモノト思フ、處デ私ノ伺ヒタイノハ、其ノ政策ハ、ソレガ不十分ナラバ御訂正ヲ願ヒタイノデスガ、昭和十二年ニ其ノ現レトシテ此ノ法律ト共ニ帝燃ガ出來タ、ソレハ資本金ニスレバ七億七千萬圓デ重油輕油各、百萬「トン」、即チ二百萬「トン」ヲ拵ヘル、其ノ趣旨ニ依ツテマア色々各方面ニ子會社ガ出來、是ガ政策ノ現レト思フノデス、一體帝燃ノ勢力範圍ト云ヒマスカ、業務範圍ト云フモノハ内外地ニ及ベベキモノト思ヒマスガ、此ノ滿洲、或ハ北支ナント云フコトニハ、現在或ハ將來ニ一體手ガ伸ビルカドウカ、其處ガ私ニ能ク分ラナイ、ソシナコトモ一ツ伺ツテ見タイ、ソレカラ此ノ燃料政策トシテハ統制問題ガアリ、規正問題ガアル、近ク又大イナル規正ガ加ヘラレルト思フノデスガ、其ノ規正ヲ受ケルノハ我々モ無論覺悟シテ居ル、ソレハ此ノ大イナル國家ノ施設ト思フノデスカ

ラ、矢張り液體燃料調査委員會ニ付議サレテ、サウ云フコトヲ遂行サレルノカ、或ハ内輪デ燃料局長官ノ計ヲヒデ斷行サレルモノカ、ソシナコトモ私ハ聞キ洩シテ居ル、マア大キク言ヘバ燃料局長官ノ權限デアリマスガ、我ガ國ノ此ノ液體燃料政策ヲ實行スルノニ燃料局長官ノ權限ガ何處迄伸ビルモノカト云フコトガ一ツト、前ニ御話シタ帝燃ノ業務範圍ト云フモノガ何處迄伸ビルカ、マア斯ウ云フコト、ソレカラ此ノ前ニ實ハ御話ヲ伺ハウト思ツテ、其ノ際遠慮シタイト云フ御話デアリマシタガ、ドウモ我々トシテハ、政策ト云フケレドモ一體生産能力ト謂フカ、生産數ト謂ヒマスカ、是ニ對スル生産能力ト云フモノガ決マラナケレバ政策ニナラナイ、ソレガドウモ我々雲ヲ擱ムヤウニデ誠ニ不安ニ堪ヘナイ、先刻申シダヤウニ帝燃ノ手デ二百萬「トン」ハ出來ル、撫順デハ松岡君ノ言フニハ前ハ五十萬「トン」近クニナツテ、又五十萬「トン」拵ヘル、詰リ百萬「トン」拵ヘルト云ツテ居ル、ソレガ本當ニ實現スルモノカドウカ分ラナイ、ソレカラ近ク又吉林ノ方デ野口君ノ手デ三十萬「トン」ノ工場ヲ拵ヘテ居ル、ソレカラ熱河ノ方デ三井ノ系統デモウ之ハ工場モヤツテ居ル、之ハ新聞ニ出タコトダカラ祕密デモ何デモ

ナイ、ソシナコトヲ考ヘテ見ルト、茲ニ差向キ數年ノ後ニハ幾ラニナリマスカ、三百五六十萬「トン」ノモノガ出來ル、ケレドモ、一方カラ言ヘバ液體燃料ノ増加ト云フコトハ一年ニ二割、五年經テバ倍ニナル、其處デ果シテ日本ノ液體燃料政策ガマア假ニ五百萬「トン」出來ルモノトスレバドウナリマスカ、今ハ宜イケレドモ十年モ經ツタラ又惱マナケレバナラス、マアサウ云フヤウナ關係ニアツテ、ドウモ生産數並ニ能力ノ問題ハ、私ハ其ノ政策ト相關聯シテ離ルベカラザルモノト思フ、政策ト云フモノハ我々ガ贊成スルナラバ、其ノ數量ナント云フコトヲ承ラネバドウモ見當ガ付カヌヤウナ感じガスルノデス、ソレカラ水力電氣ノ如キハハ御承知ノヤウニ立テル時ニ「キロ」幾ラ、何百圓、三四百圓カラ五百圓モアリマセウ、サウ云フヤウナ基礎計算ト云フモノガアル、處ガ此ノ乾溜事業ナリ、合成事業ナリ、詰リ液化ノ問題ニ付テハソシナコトヲ聞イタコトモナケレバ又御話ニナツタコトモナイ、私ハ玄人デアリマセヌカラ、ソシナコトヲ伺ツテドレダケノ利益ガアルト云ハレルト一言モナイノデスガ、ソシナコトモ何シロ……今度樺太デ以テ差向キ四千萬圓ノ子會社ヲ拵ヘテ、將來ハ一億二千萬圓

ノ金デヤツテ行カウ、サウスルト「トン」當リ幾ラニナリマスカ、基礎計算ガ幾ラデスカ、マア今ノ帝燃ノ方デ致シマス、ソレヨリズツト安イ、松岡君ノ力説シテ居ル所ノ五十萬「トン」、一億五千萬圓カラ見ルト、是ハ「トン」拵ヘルノニ三百圓、マア三百圓カラ五百圓、良イノハ五百圓以上ト思ツテ居リマス、構太ノ如キハサウ云フヤウナ風ニモ考ヘラレマス、一體ソシナコトヲドウ考ヘタラ宜イノカ、是ハ素人染ミタ考ヘデスケレドモ、ソシナコトヲ伺ヘレバ結構デアリマス、ソレカラモウ一ツハ今ノ試驗研究ノ問題デ、是ハ此ノ前私ガ申上ゲタ、例ヘバ資源局ノ報告ヲ見デモ、ドウモ色々所デ色々ナコトヲヤツテ居ル、之ガ當局トノ間ニドレダケ關係ガアルモノカ、當局ハモウ勝手次第……、ソレデハ競争的ニヤツタガ宜カラウト云フ風ナ、ソシナコトモアルマイト思ヒマスガ、ドノ位ナ程度ニ迄御了解ガアルノカ、或ハ相當ナモノニ所謂助力ヲシテ、マア第一ニ連絡ヲ附ケテ、サウシテ有望ナモノニハウント助力ヲシテ、一日モ早く成果ヲ擧ゲルヤウニナサルト云フコトモ一方法ト思フ、ソシナコトガ一體アルノカナイノカ、マア大體ソシナコトデ石油、液體燃料ノ政策ノ樹立並其ノ

内容、而シテ「コスト」ノ問題、ソレカラ今ノ研究、連絡並ニ是ノ達成ニ付テノ問題、ソナコトニ付テ一ツ出来ルダケ御話ヲ伺フコトガ出来タラ結構ト思フノデス

○政府委員(小島新一君) 液體燃料ニ關シマスル一般ノ政策並ニ人造石油事業ノ状況、更ニ試験研究機關ノ連絡統一ト云フヤウナ問題ニ付テ一應御答ヲ申上ゲタイト思ヒマス、只今私共ガ液體燃料ノ自給促進ニ關シマスル施設ノ概要ト致シマシテ、先ヅ第一ニ内外ニ於キマスル石油天然資源ノ開發ト云フコトヲ申上ゲマス、國內ニ於キマスル石油資源ノ状況ニ付キマシテハ、從來色々調査ナリ説ガゴザイマスルノデアリマスケレドモ、燃料局ト致シマシテハ一方ニ於キマシテ地質調査ニ更ニ徹底シマシタル施設ヲ講ジマシテ、我が國ニ於キマスル油田ノ地帶並ニ試掘ヲ致シマスル場合等ニ付テ精査ヲ致シマス同時ニ民間ニ於キマスル試掘事業ニ付キマシテハ、一層擴充シマシタル助成計畫ヲ立テタイト考ヘテ居リマス、此ノ資源開發ノ施設ト致シマシテ、從來カラヤッテ居リマシタ新シイ油田ノ開發ト云フコトニ付キマシテ、今申上ゲマシタヤウナ助成ヲ更ニ徹底致シマス同時ニ、所謂既開發油田、從來相當ノ石油ヲ出シマ

シタ、寧ろ老衰ニ入りマシタ油田ヲ更生セシムルト、斯ウ云フ意味ニ於キマシテ、今回更ニ坑道掘採油法ニ依リマスル油田開發ト云フコトヲ考ヘマシタノデアリマシテ、此ノ坑道掘ノ採油法ハ外國ニ於キマシテモ現ニ相當ノ成績ヲ擧ゲテ居ルノデゴザイマシテ、我が國ニ於キマスル此ノ油田地層ニ於キマシテ、果シテ是ガ實施シ得ルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、相當ノ準備調査ヲ必要ト致スノデアリマシテ、大體ノ研究ト致シマシテ、我が國ニ於テモ之ヲ實施シ得ルノデハナカラウカト云フ點ニ付キマシテハ、先般科學審議會等ニ於キマシテモ研究ヲ致サレタノデアリマスルガ、更ニ具體的ノ坑道掘採油法ノ實施計畫ヲ立テマスル爲ニハ、モウ少シ詳細ナル「ボーリング」ヲ致シマシテ、或ハ一・二坑道掘ヲ實施致シマシテ、其ノ將來ノ見透シニ付テ相當ノ資料ヲ得タイ、斯様ニ考ヘマシテ所謂坑道掘採油法實施ニ關シマスル準備調査ノ經費ヲ昭和十四年度ノ豫算ニ計上致シタノデアリマス、是等ニ依リマシテ國內ニ於キマスル石油資源ノ開發ニ力ヲ致シマス同時ニ、海外ニ於キマスル石油資源ノ獲得、又北樺太ニ於キマスル帝國ノ利權ヲ一層有効ニ活用スル、北樺太ニ於キマスル石油資源ノ開發

ニ一段ト力ヲ致シ、是等ノ施設ニ依リマシテ、内外ニ於キマスル石油資源ノ開發ヲ期待致シテ居ルノデアリマス、此ノ天然資源ノ開發ト共ニ、計畫的ニ人造石油事業ノ振興ヲ圖リマスル爲ニ、過般人造石油製造事業法、帝國燃料興業株式會社法ヲ制定致シマシテ、此ノ二法律ヲ兩翼ト致シマシテ、我が國ノ人造石油事業ノ振興ヲ圖ル、斯様ニ相成ッテ居ルノデアリマス、固ヨリ液體燃料ノ需要ト云フモノハ年々増加シテ參ルノデゴザイマシテ、是等ノ施設ニ依ッテモ今俄ニ自給ヲ得ルト云フコトハナカノ困難デアリマスルケレドモ、當局ト致シマシテハ出來得ル限り自給自足ヲ促進スルト云フコトニ努力致シマシテ、我が國ノ國防資材トシテ最重要ナル此ノ資源ヲ出來ルダケ外國ニ依存スルコト少カラシムルヤウニ致シタイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、是等ノ燃料政策ハ大體各省協議會ニ於キマシテ其ノ大要ヲ決定致シマシテ、之ニ基キマシテ今申上ゲマシタヤウナ人造石油ニ關スル兩法案ノ提出ト相成ッタノデゴザイマシテ、先程御指示ガアリマシタ液體燃料委員會ハ、是等ノ政策トハ別個ニ、只今アリマスル石油業法又人造石油事業法ノ運用ノ上ニ於キマシテ、例ヘバ新シク石油事業ヲ許可スル、

或ハ人造石油事業ヲ許可スル、又ハ是等ノ兩法律ニ依リマシテ、公益上ノ必要ニ基ク政府ノ處分ヲ致シマス場合、是等ノ場合ニ於キマシテ此ノ液體燃料委員會ニ付議致シマシテ、政府ノ許可處分ヲ致ス、斯様ナ順序ニ相成ッテ居ルノデゴザイマス、更ニ試験研究ニ付キマシテ商工省ニ燃料研究所ガゴザイマシテ、石炭ノ利用ノ方面ヨリ更ニ進ミマシテ、現在ハ各種ノ石油ニ關シマスル基礎的研究ヲ致シテ居リマスル外、人造石油事業ノ製造技術ニ付キマシテ諸般ノ基礎的調査ヨリ、更ニ中間的工場試験ニ進ンデ居ルノデゴザイマスガ、此ノ試験研究ニ付キマシテハ、海軍ノ燃料廠、又民間ニ於キマシテモ理化學研究所、其ノ他當業者ノ方面ニ於キマシテ色々研究實驗ガゴザイマスノデ、是等ニ付キマシテハ出來得ル限り聯絡調整ヲ圖リマシテ、研究者ノ創意ヲ何處迄モ暢達スルト同時ニ、又試験研究ニ無駄ノナイヤウニ此ノ間ニ連絡ヲ圖ルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、此ノ各種ノ試験研究ノ連絡ト云フコトニ付キマシテハ、企畫院ニ化學部ト云フヤウナ特殊ノ機構モ現在考ヘラレテ居ルノデアリマスルガ、燃料局ト致シマシテモ人造石油事業等ニ付キマシテハ、特ニ關係各方面ノ協力ヲ得マシ

テ、試験實驗ノ連絡ト云フコトニ今後施設ヲシテ参リタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デゴザイマス、而シテソレ等ノ民間ニ於キマスル研究ノ中ニ於キマシテモ、適切ナルモノニ付キマシテハ或ハ帝燃會社等ヲシテ是ガ助成ヲ圖ラシムルト云フヤウナコトモ一ツノ方法デアラウカト考ヘテ居ルノデゴザイマスガ、實際ノ試験研究ノ助成ニ付キマシテハ今後帝燃ヲシテ必要ナル施設ヲ講ゼシムルヤウニ、目下帝燃ニ指示ヲ致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、帝國燃料興業株式會社ノ事業ノ範圍ニ付キマシテハ、必ズシモ日本ニ於キマスル内地外地ニ限ラズ、滿洲國ニ於キマスル人造石油事業ニ對シマシテモ投資ヲ致シマシテ、又其ノ事業經營若シクハ技術ニ付テ指導シ、其ノ事業ノ綜合ヲ致スト云フコトニ相成ッテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、唯北支ニ於キマスル人造石油事業ニ付キマシテ、帝燃ガ如何ナル立場ニ立ツカト云フコトニ付キマシテハ、目下關係方面トモ協議ヲ致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマシテ、此ノ點ハ今後ノ問題ト相成ルコトト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、石油ノ消費規正ニ付キマシテハ、漸次其ノ節約ノ程度ガ高マッテ参リマシテ、今日ニ於キマシテハ産業交通上

可ナリ極度迄制限ヲ受ケテ居ルノデゴザイマシテ、是以上ノ消費規正ノ強化ト云フコトハ、餘程慎重ニ考慮セネバナラヌコトト考ヘテ居ルノデゴザイマス、併シナガラ此ノ點ニ付キマシテハ、單ニ石油燃料ト云フ方面ノミヨリ考ヘル譯ニハ参リマセヌノデ、一般ノ物資動員計畫ノ一部トシテ、石油ノ消費規正ノ程度等モ決定セラレル譯デゴザイマス、消費規正ノ程度ハ單ニ燃料局限りニ於テ決定シテ居ル譯デハゴザイマセヌノデ、物資動員計畫ノ重要ナル一部門トシテ閣議ノ決定ヲ得マシテ、ソレニ基キマシテ出來得ル限り産業交通上ニ支障ヲ少カラシムルヤウニ緩急按配致シテ、實施ヲ圖ッテ居リマヌヤウナ次第デゴザイマス、更ニ人造石油事業ノ生産費ニ關スル見込ニ付キマシテ御尋ガゴザイマシタガ、此ノ點ニ付テモ過般一應ノ御答ヲ申上ゲタ通り、大體低溫乾溜法、石油合成法、又水素添加法ニ依リマシテ、其ノ工場立地ノ情況、使用原料ノ情況等ニ依リマシテ各、差ヲ生ズルノデアリマスルガ、樺太ニ於キマスル人造石油事業計畫ト致シマシテハ、先ヅ七十錢見當ト見込ムコトガ適當カト考ヘテ居リマス、七十錢ト申シマスノハ、「ガロン」當リノ工場ニ於キマスル生産費デゴザイマス、合

成法等ニ於キマシテハ或ハモウ少シ廉ク出來ル場合モアラウカト思ヒマスガ、具體的ノ數字等ニ付キマシテハ、折角三井鑛山等ニ於キマシテ近ク工場モ操業ニ入リマスノデ、ソレ等ノ結果等モ見タ上デ申上ゲタイト考ヘテ居リマス、撫順ニ於キマスル「オイル・シエール」ノ生産「コスト」ハ、從來ハ石炭ノ採掘ニ伴フ寧ろ副産物のノ頁岩ヲ利用致シマシタ關係上相當廉クナッタノデアリマスガ、今後新シク「オール・シエール」ヲ採掘致シマシテ、主トシテ石油ヲ造ル意味ニ於テ企業採算ヲ考ヘタ場合ニ於キマシテハ、必ズ從來通りト云フ譯ニハ参ラヌト思フノデアリマスガ、併シナガラ水素添加法等ノ生産費モ比較シマスレバ、尙若干有利ナル採算ニ立ツノデハナカラウカト云フ風ニ認メテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、以上大體ノ各項ニ付テ説明申シマシタ

○子爵野村益三君 將來誤解アルトイケマセヌノデ、實ハ私ノ、前ニ述べタ數量ニ付テ御訂正ガアルカト思フタ、私ハ先刻帝燃ノ生産能力ガ二百萬「トン」、ソレカラ先ヅ撫順ノガ百萬「トン」、アト五十萬「トン」ト見テ三百五十萬「トン」ハ出來ルダラウ、大層心強ク感じタ、ソレガ過大ナ計算デ、結局撫順ト云ヒ、滿洲ト云ヒ、北支等ニ於ケル生産量ト云フモノハ既定ノ二百萬「トン」ノ中ニ置カナケレバイケナイ、結局二百萬「トン」ヲ、茲、昭和十七年デスカ迄拵ヘテ、ソレニ對シテ七億七千萬圓ト云フモノヲ使フノダ、是ハ現在ノ日本ニ於ケル液體燃料ノ政策ノ根本、斯ウ云フ風ニ諒解シテ宜イノダト思フガ、是カラ後ニ擴充トカ何トカ、此ノ既定ノ計畫ヲ變更サレルヤウナコトハナイト思ヒマスガ、ソレハ御答ガ出來マスカ

○政府委員(小島新一君) 人造石油製造事業ノ將來ノ計畫ニ付キマシテハ、矢張り日滿ヲ通ジマシテ揮發油、重油各百萬「キロ」ヲ目標ト致シテ只今進ンデ居リマス

○子爵野村益三君 ソレカラ私ハ先刻「トン」當リノ計數ヲ申上ゲタノハ詰リ、其ノ工場ヲ拵ヘルノニ其ノヤウナ基礎計算デ拵ヘルンダ、ト云フニ過ギナイ、生産工場ガ出來テ後ノ生産費ハ今御話ノ通りト思ヒマスガ、其ノ數字ガマア大體アナンモノデ宜イカ

○政府委員(小島新一君) 人造石油製造業ニ付キマシテ工場設置費ハドノ位ニナルカ、ト云フ御話デアリマスガ、從來水素添加事業ニ付キマシテハ「トン」當リ三百五十圓程度ノモノヲ豫想致シタノデゴザイマス

ガ、最近ノ情勢ニ於キマシテハソレデハド
ウモ足ラナイヤウデゴザイマシテ、矢張り
只今野村子爵ノ仰セラレタヤウニ四百五十
圓カラ五百圓見當ヲ見込ム必要ガアルノデ
ナカラウカト思ッテ居リマス

○子爵野村益三君 極ク坦懷ニ御話ヲ承ッテ
満足致シマスガ、モウ一ツ重大ナコトデ
我々ノ誤解ヲ一掃スル爲ニ承ッテ置キタイ
コトガアル、ソレハ此ノ試掘デナク何ト云
ヒマスカ、油田ニ井戸ヲ掘ルコトヲ鑿井ト
云ヒマスカ、今迄アル近所ニ又掘ル、ソレ
ヲ大イニヤレト云フ論者ガアルノデスナ、
御承知ノ通り……政府ハ宜シク只今ノ豫算
ニ計上サレテ居ル試掘費ノ六百萬圓位デハ
足ラナイノデ、少クトモ二千萬圓位出シ
テ、五箇年計畫デ一億位ノ金ヲ使ッテ、サウ
シテ石油ノ地下ニアル状態ヲ確認シロト云
フコトヲ主張シテ居ル人モアル、併シナガ
ラ其ノ一億圓ニ近イ財源ハドウスルカト云
フト、ソレハ何デモナイノダ、詰リ消費稅
ヲ増セバ宜イノダ、現ニ日本デハ「アメリカ」
ト同ジヤウナ値段デ買入レテ居ル、使ッテ
居ル、之ヲ「フランス」ヤ「ドイツ」ニ比ベレバ
非常ナ差ガアル、試ミニ「ガロン」二十錢ノ
消費稅ヲ掛ケテモ八千萬圓デスカ、一億ニ近
イ財源ガ出來ルンダカラ、ソレデ大イニ今

ノ試掘ヲヤルガ宜シ、又何ト云ヒマスカ、
穴ヲ掘ッタラ宜カラウ、井戸ヲ掘ッタラ宜カ
ラウト云フヤウナコトヲ主張シテ居ル者ガ
アル、是ハ私ハ甚ダ俗耳ニ入り易イ論ト思
フ、ソレト共ニ非常ニ消費者ニ取ッテハ重大
ナ影響ガ起ル、其ノ影響スル所、産業上
ノ打撃ト云フモノハ非常ナモノ、是モ一ツ
當局ノ御考ガ何處ニアルカト云フコトヲ
ハッキリ伺ッテ置キタイト思フ、我々モデス、
唯漠然ト考ヘレバ成ル程ソレハ宜イ工夫
ダ、詰リ一石二鳥ノ方策デナカラウカト云
フヤウナコトヲチョット考ヘラレル、ヨモヤ
サウ云フコトガ本當ニ働キ掛ケルコトハナ
カラウト思ヒマスガ、將來ノ世人ノ誤解ヲ
解ク方法ニモナリマスカラ、其ノ點ニ付テ
當局ノ御所見ヲ伺ヒタイ

○政府委員(小島新一君) 我が國ニ於キマ
スル石油資源ノ開發ニ付キマシテハ、只今
申上ゲマシタ通り矢張り地質調査ト云フコ
トヲ決定致シマシテ、試探ヲ致シマスル場
合ニ於キマシテハ其ノ人的資源竝ニ物的設
備ノ活用ニ付キマシテ最モ有効適切ナラシ
メルト云フコトガ、今次ノ場合最モ必要ダ
ラウト思フノデアリマス、技術者竝ニ勞働
者等モ、必ズシモサウ豊富ニ今日得ルト云
フコトニハ參ラヌト思ヒマス、又設備、機

械能力、又必要ナル物資ト云フモノニ付キ
マシテモ、サウ容易ニ整備スルト云フコト
モ參ラヌト思フノデアリマス、今日ノ場合
ニ於キマシテハ矢張り地質ノ精査ヲ進メマ
シテ、最モ適當ナル所ニ試掘ヲ進メテ參
リ、其ノ範圍ニ於キマシテ出來ルダケ今後
ノ試掘及採油計畫ヲ擴充シテ參リタイ、左
樣ニ考ヘテ居ル次第デゴザイマス、只今燃
料政策ヲ施行シテ參リマスル上ニ於キマシ
テ、財源ヲ消費稅ニ依ルト云フコトニ關ス
ル御質疑ガゴザイマシタガ、此ノ點ニ付キ
マシテハ今後ノ人造石油事業ノ進行狀況、
又一般ノ燃料政策遂行ノ上ニ於キマシテ、
或ハ必要ニ應ジマシテ所謂石油ノ價格政策
ト云フ點ニ付キマシテ考慮ヲ必要トスル場
合ガ生ジナイトハ限リマセスガ、只今ノ所
御話ノヤウナ意味ニ於キマシテ消費稅ヲ増
スト云フヤウナコトハ考ヘテ居リマセス

○子爵野村益三君 一先ツ是デ終リマス
○委員長(伯爵堀田正恒君) 秋元子爵如何
デスカ
○子爵秋元春朝君 私モチヨット燃料ニ付
テ極ク細カイコトデアリマスケレドモ、一
二伺ッテ見タイト思ヒマス、先程來野村子爵
ノ御尋ニ對シテ詳シイ御説明ガアリマシタ
ノデ、非常ニ私モ能ク了解致シマシタガ、

十七年トカ云フモノヲ目安ニ置カレテ、
是レノノ量ノ石油若シクハ「ガソリン」ヲ
造ルト云フヤウナ御話ガアツクソデアリマ
スガ、是ハ極ク赤裸々ナ質問デスケレド
モ、十七年迄私共斯ウシテ石油竝ニ「ガソ
リン」ノ消費節約デ我慢シタラ、其ノ時ニ
ナツタラ元同様、或ハ元以上行ケバ尙宜イ
ト思ヒマスガ、少クトモ十七年頃ニハ元ノ
ヤウニ消費出來ルトカ、或ハ「ガソリン」ト
カ石油トカ云フモノガ、使ヒ得ル見込ガ立ッ
テ居リマスカドウデスカ、其ノ邊ハ如何デ
スカ

○政府委員(小島新一君) 御尋ノ消費規正
ノ程度ノ問題デゴザイマスガ、是ハ單ニ燃
料事情ノミヨリ之ヲ決定スル譯ニハ參リマ
セス、我が國ノ輸入力及諸般ノ需要物資ノ
調達ト云フ廣イ見地カラ、所謂物資動員ノ
計畫ヲ樹テマスノデアリマシテ、是等ノ全
體ヲ通ジタ見地ヨリ初メテ規正ノ程度ガ定
ルコトハ先程來申上ゲマシタノデアリマシ
テ、今後ノ規正ノ程度ガドウナルカト云フ
コトハ、遽ニ申上ゲニクイノデアリマス、
併シナガラ石油ト云フモノハ我が國ノ産業
ノ上ニ於キマシテ、又交通、文化ノ上ニ於
キマシテ、最モ必要ナモノデアルト云フ意
味ニ於キマシテ、出來得ル限リ國內ニ於キ

マスル自給ヲ促進シテ參リマシテ、外國ニ石油ノ供給ヲ依存シナイヤウナ狀態ニ一歩進メタイ、斯様ナ狀況デアリマス、我が國ノ石油ノ供給ガ外國ニ依存スルコト少ケレバ少イ程、消費規正ト云フヤウナモノニ付キマシテモ、産業、交通上ニ迷惑ヲ掛ケルコトガ少クシテ濟ムノデハナカラウカ、斯様ナ風ニ考ヘテ居リマシテ、折角之ガ自給促進ニ努メテ居ル次第デゴザイマス

○子爵秋元春朝君 斯ウ云フ風ニ了解シテ宜シウゴザイマス、私ノ伺ヒ方ガ餘リ率直ニ過ギタノカモ知レマセスガ、政府デ是レ是レノ施設ヲシ、是レノ計畫ヲ樹テ、是レノコトヲシテ、サウシテ十七年頃ニハ外國依存ニ依ラズシテ自給自足ガ出來ル程度ニ運ンデ居ル、ソレアルガ故ニ今日ニ是位ノ消費デ宜イノダト、斯ウ云フ風ニ解釋シテ宜イノデアリマス、サウナレバドウ云フ風ナコトニナルカ知レマセスケレドモ、此ノ計畫ハ無論成功スルモノデセウガ、若シ又之ニ著手シテ居ナケレバ、全部今日カラモウ「ガソリン」ハ一滴モ使フコトハ出來ズ、石油モ一滴モ使フコトガ出來ヌト云フヤウナ窮狀ニ陥ッテ居ルト云フ、極ク悲觀論デスケレドモ、サウ云フ肚ニ見テ宜イノカ、ソレトモ今ハ一時ノ忍苦ダ、他日八十

分使ハシテヤルヤウニスル、設備モスル、無論外國依存ノ考デ、今デモサウ思ッテ居ルノダ、今後ハ尙更ノコトダ、逆ニ外國ニ輸出スル位ノ肚ヲ以テヤッテ居ルト云フ風ニモ見エル、又片ッ方カラ言フト、一遍是ダケニシタラ、何ヲ言ッテモ今後ハ是以上ニハシテヤラヌゾ、是ダケデ我慢シテ居レ、是ガアツタ爲ニ今日一日一升デモ「ガソリン」ガ使ヘルノダト云フ風ニモ見エルノデスガ、ソコハドウナッテ居リマス、ソコニ疑惑ヲ持ツノデス

○政府委員(小島新一君) 人造石油事業ノ振興計畫ニ依リマシテモ、又一方ニ於キマス「アルコール」ノ混用計畫、又國內ニ於キマスル產油ノ増產ト云フヤウナコトヲ考ヘマシテモ、昭和十八年度ニ於キマシテハ、更ニ相當多量ノ石油ヲ外國ヨリ入レルト云フコトハ已ムヲ得ナイト、斯様ナ風ニ相成ッテ居リマス、其ノ數量ハ從來入レテ居リマシタ程度ノモノト餘リ大差ガナイ、斯様ナ狀態ニナッテ居リマス、今遽ニ自給自足ト云フコトニハ參ラヌト思ッテ居ル次第デゴザイマス

リマスルシ、何デスカ、秋田地方トカ或ハ越後地方トカ、又ハ其ノ他ノ地方ニ於テモ、餘程一昨年或ハ一昨年アタリノ出テ來マス量カラ見レバ殖エテ居リマス、其ノ點ハドウナッテ居リマス、石油ノ產額ニ付テ……

○政府委員(小島新一君) 石油ノ產額ニ付テノ御尋デゴザイマスガ、十二年以降ノ產額ニ付テハ此ノ席デハ差控ヘタイト思ヒマス、併シナガラ地質調査ノ結果ハ、相當各地ノ試掘ニ於キマシテ良イ成績ヲ見テ居ル場所ガゴザイマス、從來助成ヲ致シマシタ試掘ノ成績カラ見マスルト、大體百二十バカリゴザイマスガ、其ノ中院内、小國ノ此ノ二箇所ニ於キマシテハ、御承知ノ通り非常ナル盛況ヲ呈シタモノガゴザイマス、其ノ外ニ尙九箇所程ハ油ガ出タノデアリマス、今後モ地質調査ト相俟ッテ考慮致シマスナラバ、相當ノ成績ヲ期待シ得ルコトト考ヘテ居リマス

○子爵秋元春朝君 私モ此ノ程度デ宜シウゴザイマス

○委員長(伯爵堀田正恒君) ソレデハ今日ハ此ノ程度デ如何デゴザイマス、

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(伯爵堀田正恒君) ソレデハ是デ

散會致シマス

午後二時五十九分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵堀田 正恒君
副委員長 男爵大藏 公望君
委員

侯爵池田 宣政君
侯爵大炊御門經輝君
子爵野村 益三君
子爵秋元 春朝君
子爵保科 正昭君
男爵福原 俊丸君
男爵久保田敬一君

今井田清德君
丸山 鶴吉君
澁澤 金藏君
今井 五介君
松本勝太郎君
風間八左衛門君

政府委員

燃料局長官 小島 新一君
拓務政務次官 寺田 市正君
拓務參與官 江藤源九郎君
拓務書記官 森重 千夫君
朝鮮總督府政務總監 大野綠一郎君

朝鮮總督府財務局長 水田 直昌君
樺太廳長官 棟居 俊一君

貴族院朝鮮事業公債法中改正
法律案特別委員會會議事速記録
第三號正誤

頁	段	行	誤	正
六	二	一	物理、探鑛	物理探鑛
〃	〃	二	地震計探鑛	地震探鑛
〃	〃	四	地震計探鑛	地震探鑛
〃	〃	一三	地下ニ下ゲル	地下ニ於ケル
〃	〃	二五	答辯	御答辯

昭和十四年三月七日印刷

昭和十四年三月八日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局